





◇ 行 政 視 察 概 要 ◇

委 員 会 名	総 務 常 任 委 員 会	
委 員 名	[委員長] 森 為次 [副委員長] 野中 一秀 [委員] 面村 好高 [委員] 鞆岡 誠 [委員] 谷尻 宣雄	
視 察 先	富 山 県 南 砺 市	石 川 県 津 藩 町
視 察 日 時	H 2 8 . 7 . 2 8 (木) 午後2時00分 ~ 午後4時00分	H 2 8 . 7 . 2 9 (金) 午前10時 ~ 正午
調 査 事 項	「移住・定住促進施策」について	「移住・定住促進施策」について 「人口ビジョン」について
教 示 内 容 等 ( 抜 粋 )	<p>南砺市は、平成16年に合併され、面積669Km<sup>2</sup>、うち山林が80%、高齢化率も34.9%と本市と条件が似ています。少子高齢化と人口減少が進む中、婚活支援、定住奨励金、移住体験ハウス、空き家実態調査、山間過疎地域支援などの事業に取り組まれています。</p> <p>平成26年4月にこれらの事業を一元的に取り扱う「南砺で暮らしません課」を市内のショッピングセンター内に設置され、10人の職員が早番・遅番勤務を組まれ、午前9時から午後9時まで、土日・祝日も営業され、住民や南砺市に移住を考えておられる方が、いつでも気軽に相談いただける体制を整えられています。</p> <p>予算は、定住促進の事業だけで、約1億4,000万円、婚活関係予算が約1,000万円、あと市民協働関係と広報関係等合わせて、総額3億円ぐらいということです。</p> <p>いろいろな形で移住・定住を促進するメニュー（婚活も含めて）をされており、「田舎暮らしの本」も作成され、施策について高い評価を得られています。</p>	<p>津藩町は、金沢市のベットタウンとして、毎年人口が増加しています。しかし、減少に転じる前に手を打とうと、平成25年10月より住宅取得等奨励金制度等を定住施策に取り組まれています。人口ビジョンの2060年までの展望は、何も手を打たない場合、3万人を割り込むと推計し、これをベースに、ここからどれだけ上積みできるかで将来展望を作られています。</p> <p>津藩町の定住促進施策は大きく区分すると、自然増対策（2事業）と社会増対策（6事業）があります。住宅に係る奨励金、祝い金などの給付型の施策については、対象の方にダイレクトに働きかける直接的な施策と位置づけられ、迷っている人の背中を押すきっかけづくりの観点からは短期的には効果が見込めるとされています。本当に定住促進、定住に結び付けるためには、子育て支援、観光、特産品、安全・安心、生活環境、学力の向上など、間接的な施策も取り入れながら、魅力を向上させたり、住民の満足度を高め、住んで良かったと実感できるような取り組みが必要であり、これらの施策を計画的、戦略的に仕掛けていくことが、正に地方創生に繋がると思われる、ということでした。</p>
	常に市長を先頭に、新しい事業を攻めの姿勢で行う組織の在り方を学ぶことができました。	本市の定住促進アクションプランの具現化に大いに参考となる研修でした。
写 真		

◇ 行 政 視 察 概 要 ◇

委 員 会 名	産 業 建 設 常 任 委 員 会	
委 員 名	[委員長] 川勝 儀昭 [副委員長] 野村 健 [委員] 山下 秋則 [委員] 林 茂 [委員] 谷尻 昌史	
視 察 先	山口県萩市	山口県長門市
視 察 日 時	H28. 7. 20 (水) 午後1時30分 ~ 午後3時30分	H28. 7. 21 (木) 午前9時30分 ~ 午前11時30分
調 査 事 項	有害鳥獣被害防止対策 (萩市サル捕獲隊緊急養成事業について他) 農山漁村民泊の取り組み (萩市農山漁村交流プロジェクト推進事業)	一市一農場の推進について
教 示 内 容 等 ( 抜 粋 )	<p>萩市では、有害鳥獣被害防止対策として、市職員によるサル捕獲隊と猟友会が協力して、サル捕獲等被害対策に取り組まれています。併せて、サル用大型捕獲檻整備事業、モンキー犬養成事業、簡易サル侵入防止柵の導入等サルが近づかない環境作りを集落ぐるみでされています。</p> <p>サル被害に対応し、効果的なサル捕獲を実施するため、狩猟免許を取得した萩市職員が公務としてこれに当たられています。従来の猟友会捕獲隊の活動に代わるものではなく、補完的活動とされ、猟友会の方には同意を得て平成25年度から取り組んでおられます。</p> <p>農山村交流プロジェクト推進事業では、山口県観光連盟等と連携し、農業体験、漁業の体験、萩焼きの体験や歴史学習等体験型教育旅行の誘致活動を行い、生徒の受け入れに取り組まれています。</p> <p>また、山口県観光連盟との連携により旅行代理店等への訪問活動などを実施し、インバウンド受入については、山口県観光政策課、中山間地域づくり推進課と連携されています。</p>	<p>長門市では、平成26年にいち早く一市一農場推進室を設置し、同時に集積バンクを設立されました。この業務により、受託を受けるということで、県内でもいち早くこの事業に取り組む意思表示を行われました。</p> <p>背景としては、農地の出し手と受け手のマッチングをスムーズに展開するために、市と農業委員会とJAと地域の実情に精通する者によるコーディネイトが不可欠ではないかということや農地の出し手の情報を農家台帳や農家の情報等を市が保有していることもありました。更に、農地利用配分計画という受け手への農地の貸し出しになるが、資料等の作成にあたり、担い手育成、農地の利用等、市が考える農業施策等の整合性を図る必要があったこと等があります。</p> <p>農業者の減少や高齢化が進む中、長門市の農業が持続的に発展できるよう、「長門市農地集積バンク」を活用し、山口県農地中間管理機構等との連携のもと、農業生産法人や認定農業者等への農地の利用集積を更に加速し、効率的かつ安定的な農業経営を営む者が、地域農業の相当部を担うことのできる生産構造を目指し、頑張られています。</p>
	<p>農家の生産意欲が減退しないよう、有害鳥獣対策の事例を学ぶことができました。</p> <p>また、農家民泊を生業にするには課題がありますが、農業所得の向上に繋がられる手法を研修することができました。</p>	<p>南丹市においても、担い手の確保や耕作放棄地の減少に努め、発展的な農業を推進していかなければならないことの思いを強く持った研修でした。</p>
写 真		
		

◇ 行 政 視 察 概 要 ◇

委 員 会 名	厚 生 常 任 委 員 会	
委 員 名	[委員長] 木戸 徳吉 [副委員長] 前田 義明 [委員] 仲 絹枝 [委員] 大町 功 [委員] 井尻 治	
視 察 先	三重県津市	奈良県生駒市
視 察 日 時	H28. 8. 22 (月) 午後1時30分 ~ 午後3時00分	H28. 8. 23 (火) 午前10時00分 ~ 午前11時30分
調 査 事 項	新制度における子ども・子育て支援施策について (認定こども園及び地域型保育事業の現状と課題について) (私立保育所・幼稚園のこども園への整備について)	介護予防・日常生活支援総合事業について
教 示 内 容 等 ( 抜 粋 )	<p>津市では、「子ども・子育て支援施策」について、平成27年度にこども園整備方針と事業計画を策定されました。保育の量的な拡大と教育・保育の質的な改善を、提供環境の上においても、しっかりと取り組んでいくということで、より質の高い、幼児期の教育・保育をトータル的に提供していく環境を作っていくという目的を持ち、整備方針を取りまとめられました。その際、子育て家庭の環境の変化や核家族の進行、働き方の多様化による保育所利用のニーズの増加があることを考慮されました。</p> <p>私立保育所に運営補助金を出して、定員拡大に取り組まれるとともに、私立幼稚園の認定こども園への移行支援も行われています。</p> <p>今後の幼児教育・保育の提供体制を考える時、0歳児から2歳児の保育提供量の確保を第1の目標とし、3歳児から5歳児の幼稚園を中心とした教育提供体制の見直し等を行い公立の保育所と幼稚園の一体化による幼保連携型認定こども園を整備し、地域における子育て支援を充実させ、公共施設の効率的な運営・管理による効果を求められました。</p> <p>人材確保については、保育人材バンク制度を設け、資格を持ち保育士として働きたい方に登録してもらい、不足が生じた施設に斡旋されています。</p>	<p>生駒市では、平成27年4月から、新しい多様なサービスのみを総合事業として先行実施され、デイサービスとホームヘルプサービスは、予防給付に残されました。</p> <p>下半期から、予防給付サービスで提供していたことを日常生活支援事業に組み替えたことが総合事業の成功の鍵となったとの説明を受けました。</p> <p>介護予防ケアマネジメントは重要であり、基本チェックリストやアセスメントツールを活用し、している「行為」とできる「能力」をアセスメントされています。</p> <p>各地域包括支援センターにポータブルDVDを貸与して、総合事業の利用候補者に事業への参加を呼び掛け、地域包括支援センターが事業対象者をピックアップし、通所・訪問事業担当者が事前訪問する。事業実施までに3人の目で見て、初回の地域ケア会議に臨む方法が国からも評価されています。</p> <p>短期集中予防事業（集中C：通所型）の集中介入期におけるパワーアップPLUS教室の利用者は、3カ月後に担い手側に回ります。故に80歳から90歳の人や認知症の人もあるが、実際の経験から話ができるので、利用者の不安を取り除き、励みにつながっています。</p> <p>また、各機関との連携、情報提供があると強調しておられました。</p>
写 真	